

第5回「まちづくり懇談会」概要

開催日時：平成22年5月1日（土） 11：25～

開催場所：甘利山グリーンロッジ

（藤巻企画財政課長補佐）

それでは、ただいまから第5回まちづくり懇談会を始めさせていただきます。司会役は市役所企画財政課の藤巻と申します。よろしくお願いいたします。この懇談会は市民の皆さまと市長が市の現状や将来について直接お話をさせていただきまして、市民との協働による市政の推進を目的に行っています。なお、皆さまからいただきました意見につきましては、市政のほうへ随時反映させていただき、また、話し合いの内容等については、ホームページ等で公表したりしたいと考えていますので、真ん中に録音する機械を置いてありますが、録音させていただくことをご了承願いたいと思います。では、初めに本日出席しております市の職員について紹介させていただきます。横内公明葦崎市長です。

（横内市長）

どうぞよろしくお願い致します。

（藤巻）

自然環境保護と観光等の主管課であります、商工観光課の伊藤課長です。

（伊藤商工観光課長）

伊藤です。よろしくお願い致します。

（藤巻）

次にまちづくり懇談会の主幹課であります企画財政課企画推進担当の佐藤リーダーです。

（佐藤企画推進担当リーダー）

佐藤です。よろしくお願い致します。

（藤巻）

次に、広報と市民に公表するということで、広報担当の平賀と倉持の女性2名です。以上のスタッフです。よろしくお願い致します。それではここで初めに市長さんのほうからあいさつをいただきたいと思います。

（市長）

本日は、本当にご苦労さまでございます。グリーンロッジのオープンに合わせて懇談会をさせていただき訳ですが、今話がありましたように就任してから今まで4回ほどやっておりますが、今日は5回目であります。いろいろと市民の皆さまのご意見を拝聴しながら、それを市政に反映させていこうということでやっていますが、また、甘利山倶楽部の皆さま方におかれましては、甘利山の保全等にご尽力いただきまして本当にありがたく思っております。皆さま方の活動を見まして、うちの職員達が皆さまご承知のように大クリーン作戦をやりましょう、ということで平成20年からさせていただいて昨年で2回目となる訳ですが、いろいろと話を聞いているところでは、ツツジもだいぶ復活しつつあるという話を聞いております。甘利山倶楽部の方々の努力が実りつつあるなということでございます。今日もいろいろとお話があると思いますが、聞きながら甘利山の保全に関していろいろと政策を作っていきたいなと思っておりますので、どうぞ忌憚のないご意見等を賜ればありがたいなと思っております。以上です。

(藤巻)

ありがとうございます。ちなみに本日のテーマは、「甘利山の自然保護と今後の活用」となっておりますが、それを中心に、多少それでも問題ありませんので、皆さん普段思っていることを自由にお話していただきたいと思います。時間につきましては1時間位を想定しています。それでは自己紹介も含めて普段行っている活動と身近なお話をしながら、まず清水会長さんのほうからお願いします。

(清水会長)

どうも皆さんご苦労さまでございます。本当に前のグリーンロジックから見ますと見違えるようにリニューアルされました。今も雑談の中でお話があった訳ですけども、大いにこれを活用して、市内外にアピールをして活用してもらいたいなと思います。それと同時にこのグリーンロジックをベースとして甘利山一帯を知ってもらって、この良さを全国にアピールしていきたいなと思っています。私は甘利山倶楽部がちょうど7年位前に甘利山の目玉でもありますレンゲツツジの作花状況がほとんどオンシーズンの時に見ても、花があそこの一つ、そこに一つというような状態になってしまったのがちょうど2002年ですから7～8年前になります。その前からそういう状況はあった訳ですが、これでは困るな何とかしようというのが甘利山倶楽部の発足したきっかけでございまして、それ以降、皆さん方が本当に熱心に活動していただきまして、地道な活動をしてまいりました。草刈は最終的に一番の大きな事業としてやっている訳でございまして、それ前には、原因は何だろう、あるいは暗中模索の中でいろいろとやってまいりました。例えば、補植を試みたり、あるいはいろいろな結論の中で、種を取って育ててみたり紆余曲折あった訳でございまして、専門家の意見や一定の調査の結論の中で草を刈るのが当面ベターな方法ではないかということで、草刈をはじめてまいって、先ほど市長のお話にもありましたが、ちょうど昨年がクリーン大作戦の2回目ということで、その成果が本当に現れてきて、ある意味では安堵をしている訳でございまして。そういうことで、実際にこれから四季を通じて甘利山の良さというものを大いにまたこれを韮崎市の観光や学術やいろんな意味でのアピールとして内外にやっぱり知らせていきたいし、また、来ていただきたいと思っています。その中心となって先頭になって甘利山倶楽部はこれからも皆さん方のお力を借りてやっていきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたしまして、私はその会長をやっております清水一でございまして。ちょっと紹介が長くなりましたが、一応、甘利山倶楽部の活動を含めまして紹介させていただきました。よろしくお願いします。

(小林副会長)

甘利山倶楽部の副会長を務めております小林と申します。副会長が3人おりますが、その中で一番暇なのが私でして、暇なので毎日がサンデーで何するか困るという人が多い時代ですが、甘利山というものを抱えたら忙しくて忙しくてというのが本音でございまして。まさに自然保護活動というのは時代の要請です。今、それをボランティアでできないようでしたら時代から取り残されると思います。そうした意味で自然保護活動というのは、もっと地球規模でやらないといけない時代にきております。まさに甘利山倶楽部のメンバーというのは本当の意味での手弁当で足りないところは自分からお金を出してでも活動するというメンバーばかり集まっています。そういう意味でまさに韮崎市が自慢してもいい、住民がみんな自慢してもいいほどの素晴らしい組織になって現在活動しています。この甘利山倶楽部というのがそもそもスタートしたのかということ私は途中から入ったのでよくは分かりませんが、自然保護活動という目的はみんな一つではっきりと目的に向かって歩いている、だからといって相手は山ですから何をすればどうするかという答えははっきりとはできません。でも今の地球の温暖化がどうすればこうなるというのはある程度結論をもってやっているのしょうけどよく分からないところもあります。いろいろ時代によって国からの動きとかあるいは県からの動きとかいろんないわゆる政治的な動きとかがたくさんあります。今年になって特に生物多様化の云々とかの活動も入り込んできておりま

す。そういう意味でやらなければならないことのテーマはいっぱい増えております。そういう中でみんな頑張っているというのは微々たるものだけでも、10年先、20年先、100年先を考えながら動いているのが甘利山倶楽部のメンバーです。ただ、残念なのは、ひとつだけ大きな問題点というか、常日頃気持ちの中で考えていることがあるのですが、この辺を市長に聞いていただきたいのですが、甘利山は甘利山財産区の所有物だと聞いております。財産区というのはひとつの団体の持ち物であると、甘利山というのは誰のものかということが一番問題になってくるのですが、これを甘利山というところに自然に生えてきた草花によって観光地になっております。それをうまく利用しまして、利用という用語弊があるかもしれませんが、市のひとつの観光の目玉となっています。この観光の目玉は県であり、今では段々とインターネットを通じて日本でも有名な場所になりつつあります。そういう時に保護活動と観光をどう調整していったら良いかということが大きな問題のテーマです。それからもう一つは、甘利山倶楽部というものの位置づけなんです。甘利山倶楽部が好きな人同士、いわゆる気の合ったもの同士というか、その目的の一つになる人たちが集まってやっている訳なのですが、現実には勝手にやっているというところがある訳です。いわゆる何となく成すがままにしてこういう組織ができてしまったということで、現在は財産区の関係、あるいは県の関係、あるいは市との関係、それから甘利山倶楽部の関係、これが一つも調整がなされていない訳です。甘利山倶楽部は甘利山倶楽部であらうこうしようと勝手に入り込んでやっているところがある訳です。財産区の方にいちいち報告もしてはませんが、財産区はこの山をどうしようかというのは我々にはよく分からない。じゃあといって県や市の方もこの山をどうしようかということは全然我々と情報交換したこともありません。それでこういう自然を相手にしっかり行く末を決めていくためには、そういう方々とのしっかりした意見交換あるいは組織化、懇親会のような気持ち、いわゆる人と人とのつながり、こういうものをしっかり持たないとこれから甘利山倶楽部だけではどうにもならない、動かしようがなくなってくることになるんじゃないかということで、ひとつその辺を市としてはそれぞれの立場の人たちを集めてそれぞれの考え方を一つにまとめて大きな目的に向かっていったほうがいいんじゃないかと思っております。それで今、この甘利山というのは観光もありますけれども本当に大事な自然保護活動、これから一番大事な状態、それを我々個人の力だけではどうにもならないということから甘利山倶楽部に任せっぱなしだけでなく、他の組織の人たちも巻き込んでいきたいというのが私の本音でございます。長くなりますので、そういうところをひとつご配慮いただければと思います。よろしく申し上げます。

(市長)

意見交換は後でありますから、とりあえず自己紹介だけでお願いします。

(守屋副会長)

自己紹介ということですからお話はまたあとでいろいろさせていただきますが、私は葦崎の出身でございます。甘利山倶楽部の副会長という立場で活動させていただいておりますが、私の生まれたところは葦崎市の中でも甘利山からはちょっと離れていますが、藤井町でございます。藤井町と甘利山はいろいろ関係がある場所でありまして、何故かという、藤井町の坂井の娘が甘利山のさわら池の大蛇のところへ嫁いだという民話が残っております。藤井の公民館ではそんな紙芝居もできておりますが、藤巻あいこさんの昔語りのなかにもそんなことがでてまいります。藤井出身の守屋と申します。甘利山倶楽部のほうへは私は山梨県の自然監視員を10年ほどやりまして、また、葦崎の写真クラブのほうを20年ばかりやっている訳ですが、そういう中で若い頃からここへよく訪れていたのが非常に関心が高くて自然が楽しくてここへ関わってくる間に、甘利山倶楽部というのに徐々に入ってきたという感じで現在に至っております。よろしく申し上げます。

(石井会計)

倶楽部の会計をやっております石井です。この管理人もやっている訳ですが、今度はちょっと困ったな、こんなにきれいになるとお掃除の時間が大分とられて山を歩く時間が少なくなるのかなという心配をしています。これからも頑張ってくださいよろしくお願いします。

(小田切さん)

甘利山倶楽部の小田切と申します。私が甘利山倶楽部に参加させていただきましたのは、定年退職で帰ってくるしかなくなりまして、40何年振りに帰ってきました山へ上がってきましたら、昔見た自然と違っていまして手入れがされているということで倶楽部へ参加させていただきました。子どもの頃はこの県道はなかったですね。それで昭和39年頃ですか、車で上がって来れるようになって大分見た感じが違っているなど思いながら最近では上がってくるようになりました。また、いろいろお話の中でさせていただきたいと思えます。よろしくお願いします。

(斉藤さん)

事務局に名前を連ねております斉藤雪子と申します。一時期竜岡町に住んでいたのですが、今は主人の仕事の都合で東京都八王子市からこちらへ通うという形をとっています。甘利山に通い続けてから今年で41年目に突入します。また、いつか帰ってこれたらいいなど思いつつ今は外からの目とあと倶楽部からの中の目という形で情報収集活動に重きを置いてできる範囲で山に来て草刈をしたり調査をしたりしています。よろしくお願いします。

(斉藤さん)

同じく倶楽部員の斉藤と申します。よろしくお願いします。今朝も八王子を出まして、先週の草刈の時もそうだったのですが、やはり中央道の大渋滞に巻き込まれました。蕪崎に住んでいた頃、あるいはその前から倶楽部の活動にちょこちょこ参加させていただきました甘利山倶楽部も約10年経ってようやく皆さんが振り向いてくれるようになってきたということが僕はまずうれしいなと思えます。これからもよろしくお願いします。

(塩田さん)

円野町の塩田と申します。円野へ引越ししまして子どもが生まれてどこら連れていくところはとひょいと見ると、蕪崎って丸っきり無かったのですね。そこでたまたま裏山を見たら荒倉山という山がありまして、そこを女房と二人で登ったらそこそ良い山なんですね。そこで女房と二人で何とか整備しまして、おかげさまで去年の秋からこんなにお客さんに来ていただいて、今、びっくりしているところです。ただ、困ったことにお手洗いが無いのがちょっと問題になっているところです。おかげさまで非常に好評を得ているようです。ありがとうございます。これも皆さんのお口添えがあつてこそ盛況になったと思っております。どうもありがとうございます。

(秋山副会長)

白鳳会の会長も務めておりまして甘利山倶楽部の副会長をやっております秋山と申します。よろしくお願いします。

(石渡さん)

私は甘利山の年間通しての記録写真の担当で写真撮影をしています。過去4年間で大体4万ショット位、それを去年あたりから甘利山倶楽部のホームページに載せていただけようになりましたので、大分いろんな花が咲いているなどというのがホームページでも分かるようになってきたと思えます。一応、写真業界で40年働いておりました。

(深野さん)

倶楽部の深野です。私は定年でもってやることがないということで、この甘利山に来て魅力を感じて倶楽部に入ったのですが、実は私、東京の生まれで神奈川で生活していましたが会社の都合で山梨に来たという事情があって、この甘利山に近くなって、私は実は南甘利のふもと、私の家の背中が甘利山となっています。そんな関係でしょっちゅう甘利山に来ていたのですが、倶楽部に入る機会がありまして、定年退職後の暇ということもありまして、あとこちらに入っているいろんなガイド活動とか草刈とかいろいろさせていただいております。よろしくをお願いします。

(小林さん)

事務局の小林です。よろしくをお願いします。

(参加者)

荒倉山にトイレがないと言うのが気になりました。実は私は山梨県の山岳連盟に関わっていますけれど、山梨県中の山岳会が集まってきての中で、韮崎は最近いいねと言うのですが、グリーンロッジへ今度できたことや茅が岳に新しくトイレを作ったということ、今年また鳳凰小屋のトイレをやる、来年は薬師小屋をやろうとどんどん進んでいるが、誰がそういう発案をするのですかと言うんですね。やっぱりトップでしょうと。別にここにいる訳ではありませんが。今、うらやまがられています。それで今、荒倉山が確かに塩田さんが開発してすごい人気がありますが、あそこは良い山ですね、2度ほど行きましたが。またそこへもぜひトイレが欲しいと思うのですが、今、山梨県の山岳連盟では自然保護委員会の中にトイレ研究委員会というのがありまして、それでトイレのあり方をいっぱい研究しています。そういった意味でその中の話でも、「韮崎では秋山さんどういふあれでそうなったんですか」とよく聞かれます。これもひとえにトップのおかげとっております。ぜひ荒倉山も新しく展開できればいいなとっております。よろしくをお願いします。

(市長)

塩田さんにはトイレの掃除だ何だと、周りの掃除もやっていただけて本当にありがとうございます。

(参加者)

塩田さんはすごいですね。ご夫婦で山を切り開いた訳ですから。

(参加者)

韮崎ではお土産がないっていうのがあってですね。それで名物っていうこれがない。自分は来たお客さんに韮崎市の名前の由来から、たまたま地上隆起の山と海底火山の山がちょうど七里岩を挟んで右左にある訳ですね。そういう説明を織り込んで、お米を、武川米とは言わないんですよ、あえて韮崎の米と言っていますが、それでほさかさんというおにぎり屋さん、あそこのおにぎりを買って食べてください、まずかったら私お金返しますと、それくらい韮崎のお米はおいしいんですよということを言って、現実にお客さんが農家の方から直接買うわけですね。それで口コミで大分広がっています。

(参加者)

本当はお米も武川米よりも韮崎のお米のほうがおいしいのですよ、梨北米は。

(市長)

昔は竜岡から円野までを武川筋と言っていて、そこから武川米という名前が出たんですよ。今は武川町ですけど武川町という名前を使ったからどうしてもあっちのほうが武川米、武川米と言われてしまいます。

(参加者)

本当はこっちのほうが、竜岡のはおいしいですよ。

(参加者)

武田氏に武川衆というのがありますね。要するに葦崎の青木氏とか山寺氏とか葦崎の人だったんですよ。そしてあそこは「たけかわ」って書いた時代もあったけれど、もうひとつ当用漢字にあるかどうか分かりませんが違う「むかわ」っていう地名で呼ばれていたんですよ。それで葦崎の米も武川米なんです。だからあえて厳密に言うと、武川村の米は武川村米といっています。本当は、武川米が葦崎の米なんです。その辺の歴史的な事実と言うか、一般的には認識されていないことがあるのです。

(参加者)

果物も来た当初、農協さんの直売所があって、おいしいから買って行ってくださいと、誰もまずいから買って行ってとは言えませんが。それでどうしておいしいのと聞くと、説明ができないのですね。それで教えてやったのです。日照時間が日本一長いですよと、明野、明野と言うけれど茅が岳のふもとから向こうは穂坂のあたりが一番長いと。そして、塩川があるから上昇気流が出にくい、そして八ヶ岳、茅が岳があるから昼と夜の寒暖の差が激しいから果物もすごくおいしいのだと。ただ、量が採れないから有名にはなれないのだと。だから帰りに直売所があるからと勧めるんですね。それで現実には、おいしいということでお礼の手紙がたくさんきました。

(参加者)

それでは別の観点から、せっかく甘利山グリーンロッジがこんなに立派にさせていただいてありがたいと思っています。かねてから私たちも感じてはおりましたが、昔はもっと活発に使われていて小学校のキャンプにもここが使われて、私たちの子どもが小さい頃はここを使って学校でキャンプをやりましたよね。そういう思い出は子どもたちの胸に残っていると思うのですが、せっかくこういう機会に、ぜひ教育委員会を通じて市内の各小中学校でももっと昔に帰ったような活用の仕方をご検討いただければなおありがたいなと思いますし、一方において葦崎市という観点から見ますと、もっと外へ広くということがあると思いますから、そういった点からいけば観光課さんの関係になると思いますから甘利山のPRとあわせながら、今の時代を反映しています旅行関係は、ここへ来るお客さんを見ていると中年以上のご夫婦連れが非常に多いのです。全国的にも山梨県でもそうですが、エコツーリズムと言いまして環境に配慮した健康づくりの旅行が非常に盛んになっておりまして、県内でも各地区で活発です。葦崎ではそのエコツーリズムということの研修はこの甘利山倶楽部の会員さんが8名県の講座を受けまして、資格ではないのですが、修了証書を皆さん持っています、エコツーリズムのエコツアーガイドはできる方が8人位おられます。細かくできるのは甘利山を1時間かけて周ってくる、これのガイドは現実、毎年数回やっておりますけれど、それも何団体かあるのですが、一般にPRしていませんからそんなに数は多くはないと思うのですが、こういったものを市のほうでも観光PRをしながら10人位の小旅行があれば甘利山倶楽部の我々のほうに声をかけていただいて、誰かガイドしてくれないかという形の中でPRをしていくことによって、ここも使っていたり、そして甘利山も見させていただいたり、こういったことで普及もできるんじゃないかとも思っています。ここ1~2年、5~6年、10年位ですかね、この建物を使っていたのは石井さんもお存知かと思いますが、ほとんどカメラマンが多かったと思います。県外のカメラマンですね。県外のカメラマンは夏はほとんどここへ泊まって暗いうちから山へ行行って撮影をしてその作品をいろんなところで発表しますから非常に感謝する訳ですね。宣伝になっている訳です。そんなこともありますので、昔へ戻ってというとおかしいのですが、先般も会長さん、秋山副会長さんで市内の高校、中学校に甘利山倶楽部として毎年お願いに行っているのですが、校長先生にぜひご利用を呼びかけているのですが、市とし

でも教育委員会側からもそういったことを展開していただいて、まずは我々が感じてPRするということから始めて、輪を広げればなお良いかかと、関心を持っていただけるかなと、それからもっと大きくなると、私が先ほど雑談で申したように、どこか大学と提携しながら、この環境も研究していただきながら、もっと外へ発信していくことも考えれば良いかかと考えております。以上です。

(市長)

たまたまここをリニューアルしたからですが、前のままだと古くて今の時代に合わない施設だったですね。だから学校もあまり使わなかったし、今度はもちろん学校にも使ってもらうようにPRしております。

(参加者)

いろんな話が出ているんですけども、ここで手入れをしていて非常に困るのが、横の連絡がないということで、今朝もですね朝早くから森林組合の人たちが来て、そのところの草刈をやってくれたのですが、木も少し切ってくれるのですかと言ったら木は許可をもらってないからだめだと言うんですよね。やっぱり木を切らないとここから駐車場が見えない、そうするとお客さんがここにグリーンロッジがあるということが分からない、それで観光課のお骨折りで、せっかく森林組合が来てやってくれるんですけど財産区との事前の話ができていないものですからどの程度刈っていいかが分からない。その辺のところもありますので、やっぱり年に何回かは我々と財産区だとか観光課ももちろん教育委員会、あちらこちらの甘利山に関心のある人たちを集めたひとつの会を立ち上げてもらえば、あとこれは昔からみんなで話していることなのですが。

(市長)

小林副会長が最初の方に言ってなるほどなと私も今思っていたのですが。それは早速でも関係機関がどれくらいあるか分かりませんが横の連絡をとるような会議を持つようにしたいと思います。

(参加者)

さっきもお茶を飲みながら財産区の会長さんが前にいましたからそんな話をしましたが、私たちが甘利山倶楽部の皆さんにいろいろご苦勞を願っちゃって恐縮だと言っていました。

(参加者)

何かにつけてすべてがそれにつながっていきます。今、ガイドの話も出ていましたが、山の中をガイドする、そういうガイドの立場としても甘利山倶楽部がガイドできるから勝手にやっているようなものです。だけれども我々は下に降りたら、今度は桜のガイドもやります、武田の里のガイドもやります。そういうふうには知っていることはガイドできます。でも、公認のガイドが市にあるのかどうか分かりません。ガイドを委嘱されたこともありませんが、でも、ガイドできるからってということで何年か前にガイドのチョッキのようなものをもらって、はっきり申し上げると勝手にやっているのです。公認でもなんでもありません。だからガイドの組織があるのかないのかもおそらく観光課の方も市の関係の方も何も分からないと。我々は依頼されればやるというような形ですけども、依頼されなくてもそこに立っていればどんどん依頼される訳ですね。ですからその辺の組織的なものが全くあいまいなままでなすがままで、自然発生的に動いているというのが本音ですね。だからその辺をひっくるめて、いろんな行動が組織的にきちっとできれば、もっともっと役に立つのではないかと思うのですが。

(参加者)

甘利山倶楽部員は会計さんにもお聞きすると現在登録してある会員さんは県外を含めて150名以上いるそうです。だけど現実問題として草刈にこの前も24、25日に、私は来られなかったんですが皆さん大勢来ていただいて25～26人の皆さんが草刈を雪の残っている中やっていたんですよ。そういう中にも県外から来られる方もいるのですよ。だけど県外の方は今言ったようにそれだけいるのですが、全員揃って150人来る訳にはいきませんから来れる人ということで、強制はしないんですが、みんなボランティアですから、都合のつく人が来てくれています。

(市長)

石渡さんの甘利山倶楽部のホームページでそういう連絡をしているのですか。

(参加者)

結果報告はホームページに写真で載せています。

(参加者)

倶楽部のホームページというのがあります。

(市長)

それで草刈を何日に行いますとかを言っている訳ですね。

(参加者)

そうです。市の観光課ともリンクしていますから。

(参加者)

ただ、それだけでなく倶楽部の事務局から個人個人に情報発信をして組織だった動きをしています。全て事務局がそうした手続き的なことを一切計画から何から投げかけてきて行動を起こすということをやっているんで、組織としては非常に理想的な形の組織に動いている訳ですけども、残念ながら甘利山倶楽部以外の方は甘利山倶楽部の組織を全然ご存知ないということですけども少しずつこうして甘利山倶楽部として対外的なことも話があればどんどん出て行くということで、県の会合があれば出ていく、あるいは東京都のほうの関係、都内のほうで県のもっと上のレベルの関係の会合とか意見交換会とかも甘利山倶楽部としてどんどん出て行くようにしております。そういうことによって甘利山倶楽部というものが一つの宣伝にもなっているのですけれども実績を掲げることによって多少なりとも援助がいただけるのではないかとということで、お金がないと会が動きません。機械がないと手だけではこの山はとて相手にはできませんので何かとやはり細かい経費がかかりますので、すべてを自分で持ち出すのも限度がありますから、それでもみんな我慢をして手弁当で何かしのお金を出しながら動いているというのが現実なのですね。だから、今の世の中はいろんな意味で機械化されているのでどうしてもお金がかかるので、そういうふうなお金の問題も絡んできます。だけれども、みんなそれでも本当のボランティアとは金を出してでもやるんだという気持ちが一つになっている訳なのですね。

(参加者)

今の事務局のほうの小林さんや石井さんを中心にしていただいて山梨県との連携もしております。山梨県の森づくりコミッションというのがあるのですが、甘利山倶楽部は創設の第1号でトップなんですね。あいうえおのあなので。

(参加者)

企業と山の手入れを結びつけようということで、リコーさんは入っているんですね、さわら池辺りでは。でもこっちの笹刈りにはお声がかからない。

(参加者)

企業の活動というのは3年契約とか5年契約で終わりなのですね。看板まで撤去して引き揚げてしまいます。木を植えましょうということで今までの活動でほとんど木を植えていったのですが、あの手入れなしで3年でハイ終わりです、5年で終わりですとなっちゃう訳ですね。その後始末を甘利山倶楽部がまいったなーと言いながらやっているのが現実なんですね。ですから、その辺の関連も県とか市とかがそういう話があっても甘利山倶楽部とは無関係で勝手に他所で動いている訳です。甘利山へ上がってくる道中で、そうした企業さんも勝手にやっている訳なのですね。我々が知らないところでいろんなことが動いている訳です。だけど本当は、横の連絡を取り合って協力し合ってやれば、もっとより良い方向に動くと思うのですが。今はそうした横の連絡が全くないというのが非常に悩みの種なのですね。

(参加者)

財政的な面もそうなのです。今、甘利山倶楽部の会員さんから年会費一人千円です。それだけではとても足りない部分がありまして、事務局のほうでもいろいろ研究していただいて、県の助成金を今年もいただけることになりましたよね。けれどもそういうものだけで細々と労力提供によって自然を守るということに力を注いでいるところであります。まあ、2年前からは市のほうからご協力をいただけることになって、大勢の人海によって手入れができて本当に良かったと思っていますし、市内の大勢の皆さんに。

(市長)

草刈というのは人数ですからね。

(参加者)

認識を持ってもらったというのが非常にありがたいと思っています。

(参加者)

あの大作戦の効果というのははっきり出ています。よくこれだけのところの下草刈が進んだなっていうのが大作戦のおかげであります。それで個人個人の力もあります。だけど見事に手入れが進んでいます。今日あたり行かれれば本当に素晴らしいものです。この春の草刈はずでに終わっています。これによって本当に見事に頂上のほうまで草刈が進んでいますので、その効果が目に見えているというのが今なのですが。この力たるやまさに甘利山倶楽部の個人個人の力の結集だと思います。

(参加者)

もう一つ課題として残っているのは草刈問題ですけども、前に市長にお話したかどうか分かりませんが、甘利山スキー場跡が有名なんですけど、こちらへはまだボランティア、まだ危険なので市では手を入れていただけていないのですが、本当は私個人の考え方として甘利山倶楽部では言うのですが、草刈をしてもとのスキー場に戻すと牧丘町の乙女高原のように戻すと、あそこに出てくるものの植生が変わって市民がまた憩いの場に来れるんじゃないかとも思ったりするのですよ。それはまた財産区の問題もあるでしょうし。

(市長)

石井さんなんかはどう何でしょうか。甘利山のこころ辺の気温というのは。積雪量というのは昔と大分変わりましたか。

(参加者)

大分少なくなっていますよ。昔はですね、暮れの大晦日にあそこに何回か泊まったことがあるのですが、あそこから汁垂の小屋から甘利山に登るのに1時間半位かかりました。40センチ位雪がありましたから、えらい登りなんですよね。今はほとんど降っても20センチ位ですから昔から比べると大分雪の量は減りました。

(市長)

やっぱり、雪の量が減ったということは大分植生に影響しているのでしょうかね。

(参加者)

影響していますね。

(参加者)

やっぱり雪が降るとね。

(市長)

保温効果ですか。

(参加者)

保温効果というのはありますね。

(参加者)

そういうデータもとっているんです。気温、積雪、あるいは雨量、それから温度、そういうものと花芽調査というのが定期的であり、今どういう芽が出ているとか、どういう草が生えてきたとか、どこに新しいものが出てきたとか記録をとるというのも甘利山倶楽部としての大きな仕事なのです。下へ這いつくばってこうやってみんなでやる訳です。それで区画を決めてこの中にどういう種類の花が出てきてるかっていう、いわゆる芽を調査したり、その記録をとる、データをとるということが非常に大事なんで、これも1年や2年じゃあ全然答えが出ませんので、毎年毎年、県の指導がありながらも続けていっている訳です。そういうことも大事な仕事として取り入れております。

(市長)

写真を甘利山で何年撮っているのですか。

(参加者)

年間通しては、過去4年ですね。大体1週間単位で撮るんです。山野草の場合は、花の命は大体1週間で終わっちゃう花が多いですから、1週間単位で最低撮らないと年間通しての記録写真にならないんですね。それで毎週末ということでゲート上からずうっと頂上まで大体2～3時間かけて撮影しています。

(参加者)

昔、私は写真連盟のことをやってまして、この甘利山を蕪崎市のほうで売り出す一番のきっかけと言うのは全日本写真連盟の蕪崎支部というのがスタートで、23年前です。その頃、毎年、モデル撮影会というのをやりまして、その後、蕪崎市の観光課が引き継ぎまして甘利山レンゲツツジまつりとなりまして、毎年モデル撮影会をイベントとしてやっていました。あの一番盛りの頃は、今日の市長のお話の中に年間3万人とおっしゃいましたけど、あの当時は甘利山の年間の観光客が17万人という噂だったですね。本当か嘘か知らないけれど。そう言われておりましたけど。その後、今は年間行事になってしまいましたし、蕪崎の四季のコンテストに変わってしましまして応募数も最近減少傾向ということ

と、甘利山の写真が減っちゃったということ、蕪崎市で募集しているコンテストの写真の中には甘利山の部を設けてはいるのだけれど割合減っちゃったかなということを書いていましたね。

(参加者)

写真連盟の写真展の中にも甘利山の作品は大分少なくなりましたね。

(参加者)

だから、イベントの復活も大変かと思いますがどうかなということもちょっとありますね。これは観光PRの関係ですが。

(参加者)

小さな旅はすごく人気があって、千頭星とかはすごく人気があると言ってましたので、そういうことで来てもらって、甘利山の四季というか秋までの間に何回か来てもらうとか。来てもらってただ歩くだけでなく、甘利山の生態系とかそういうものも勉強すればちょうどエコツーリズムになると思います。歩くだけでなくこの山がどうやってできたとか、どういう状態で植物が変わっているかとかということもこれからは一つ勉強していくのがツアーで、ロッジへ泊まって勉強したりとかできれば良いのですが。

(参加者)

私も小さな旅は今は市でやってはいませんが、かつて何回かやってちょうどバスで来て、大体人数的に20人から50人位の間なんですけれどね、さっき塩田さんから蕪崎にはお土産がないという話がありましたけれども、お土産は買っていくものともう一つはどういう旅をするか、どういう観光をするかという中身なんですね。買っていくお土産も必要だけれどもう一つはやっぱりここへ来てただ歩くだけでなく例えば、私もその時ガイドをさせてもらったのですが、一夜漬けだったんですが、とにかく花の名前は聞かれたら全部答えられるようにしようと、できれば花の名前の由来までも話してあげようということで一生懸命頭に詰めていったら、やはり案の定、そういう話になるとすごく乗ってきて、帰るときもそれがうんと印象に残って、また来たいという気持ちになったかどうかは分かりませんが、そういうことも一つの目に見えないお土産といえますか。

(市長)

小さな旅というのは何年頃までやっていたのですか。

(参加者)

ここ5～6年位前までやっていたかな。佐藤君いる時やっていたよね。

(佐藤)

10年位前です。

(市長)

これはJRが絡んでやっていたのですか。

(参加者)

昔、市役所にいた柴崎さんの弟の高野さんがいた頃です。もうスタッフも変わっちゃったでしょうが。また、あれを積極的に取り入れるというのも良いでしょうが。

(参加者)

マイクロバス2台位でしたね。小さな旅でここへ上がってきたのが。

(参加者)

今、シーズンになるともの凄くお客が多い訳なんですけど、最近、ツアーバスが上がってくるのですが、ツアーバスだと当然狭い道だから車両の大きさが決められてしまうのですが、分からないと大型で入ってくる場合もあるのですがカーブが曲がれないでいます。その辺のルールというか注意事項というのか、せめてゲートとか山の入口のところに規制を明示してもらって、あと、ペットを今、山に入れるというのが問題になっています。

(参加者)

今朝、一人で20匹連れてきている人もいました。頼むから上がらないでくれと頼みましたよ。

(参加者)

ここに来て、ペットはいけませんよと言うと、連れてきた人はここで帰らざるを得ないんですね。せめてそういう注意事項を入口に表示しておいていただきたいです。

(参加者)

やっぱり、動物が与える影響というのは大きいですから。

(参加者)

ですから、車両とペット関係ですね。

(市長)

猿とか鹿とかはいますね。

(参加者)

そういうのがいるだけに、犬との関連とか混ぜたくない訳ですね。固有の生物を大事にする生物多様化の時代ですから、このものだけで何とか大事にしたい訳ですね。鹿が害を加えるとうことで大分問題になってますが、ある程度の数までは大事ですから、自然の中のもので一緒に生きている訳ですから、それなりに害を与えないようにと思って里から上がってくる犬類はなるべくご遠慮申し上げたいというのが本音なのですね。上がってくれば甘利山倶楽部はそこらへんも注意しなければならない。そういう看板類が非常に少ないのですね。

(市長)

これは、さっきのいろいろな団体が集まったようなところで県に言うとかだね。

(伊藤課長)

そうですね。

(参加者)

やはり先ほども言ったようにカメラマンが非常に多いのですね。ということは前の日から来ている訳です。朝日が出た頃写し終わるとみんなほとんど帰る訳ですよ。沼津とか遠くからきていますから。この坂道をとんで下りていく訳ですね。ところが登ってくる人も結構多いのですよ。さっき言ったようにバスとかね。その辺の交通安全の指示とかその辺もちょっと何か見えるようにしておかないと、この山はこれだけ多いのに何もやっていないというような言われ方を声を聞く訳ですよ。ですからその辺の表示もちょっと。

(参加者)

これは今まで県道ですから、待避所とかバックミラーがあったんですが、結構壊れているのがあって、ほとんどだめになっちゃっていてそれが県のほうで修理していただけないので。

(参加者)

ちょっと上級クラスの登山者となるとさわら池から甘利山、千頭星山と上がるのですが、その辺の道路整備とか登山道の整備、それから表示がちょっと少ないんですね。あっても昔の表示ですから、倒れちゃっているとか。そういうところも一度見直してもらって。

(市長)

登山道であって林道ではないのですね。

(参加者)

登山道ですね。歩いて普通の登山道ですね。

(参加者)

それはさわら池からこの南側に出てくる登山道があるのですが、完全に車道と離れた実に良い道なのです。それは私どもの山岳会・白鳳会で毎年6月の第1日曜日には登山道整備をやってます。だから分かっている人は昔はみんなここを下る道はあったのですが、車でズタズタにしちゃったからその道を下れば良いのですよ。そういうことは良く言っているのですけれど。だから分かる人は分かっている、そこにもツツジがありますから十分周遊できるルートがとれるのですよ。ぜひ、また勧めたいなと思っていますが。

(参加者)

去年、実際にあったのですが、頂上からその駐車場に降りてくるのに間違えて、さわら池のほうに下りちゃったおじいさんがいて、行方不明になってしまって警察沙汰になって、石井さん一晩中あちこち駆けずり回ったんです。その辺も兼ねて表示をしっかりと山全体として欲しいですね。

(参加者)

大事なところは甘利山倶楽部として手作りだけれども看板を作ってやっているのですが、なかなか上がってくる車の看板までは作れないので。

(市長)

そういったのも各種団体を全部集めた中での話し合いができて、じゃあこれはどこでやりましょうといったようなことを決めていくのが一番良いのではないのでしょうか。

(参加者)

せめて入口の規制だけは早くやったほうが良いと思いますね。

(参加者)

それからもう一つ大きなテーマなのですが、急に答えの出るものではありませんが、今の甘利山倶楽部のメンバーは大半がリタイアしてから入ってくるというのが現実です。だけれども、我々子どもの頃は山で育ちました。だから定年になってからも再び山に本能的に目を向けちゃうんですね。そこに安らぎがあるというものなのですが。残念ながら次の世代は山を知らない人が多い訳ですね。地元に住ながら全然この甘利山に登っていないのです。この間もはじめて葦崎高校の生徒さんが下刈りの手伝いに上がってきてくれました。山へ初めて上がった人はと聞きますと、全員が始めてなのですね。それで残念ながら子ど

もの頃から全くこういう山を相手にしていないというのが現実なのですね。それで残念ながら我々は毎年毎年、年をとってほとんどが60代、70代で10年先はおそらく無理だと思います。それで次の引継ぎ手を心配している訳です。だれけども、子どもの頃から山に親しむというのが大事なのですね。ですからこういうふうな教育的なことは教育委員会をひっくめてこういう大事な財産を市は持っているんだということで、お勉強の中でひとつ配慮を願って、本当は学校の勉強のカリキュラムの中で目一杯だなんて言わずに、たまには甘利山へ親しむというような教育もやっていただきたいというのが本音ですね。それでないと、勉強だけで成り立つかというところがはいかないのです。山を歩いて自然を相手にしないと人間は生きていけませんから。山を大事にするということも教育ですから。英語を習う、数学を習う、そういうよりもやはり山も大事だということを勉強の中で教えて欲しいので、教育委員会とかの関係からひとつ働きかけて欲しいと思います。

(伊藤課長)

それは、先ほど市長さんがおっしゃいましたように、グリーンロッジを今度リニューアルオープンして皆さんに喜んで使っていただける施設になりましたので、早速、5月の下旬に市内の小中学校長と教務主任さんを集めました内覧会をここでいまして、先生方に十分知っていただきまして、小中学校で大いに使ってくれと。ここの施設は本来の一番の目的が自然を楽しみながら青少年の健全育成ということですから、今、小林副会長さんおっしゃったように青少年のための施設として活用していければと思っています。

(参加者)

今日も、あの市の育成連合会長さんが見えていてその話をしたのですが、育成会のほうへも声をかけて、今、育成会の行事というのは父兄が嫌がっちゃって、危険なところへ行かないんです。だからせめてこういうところじゃあ安全だから、市内には育成会がいっぱいありますから、そちらも学校と同じように、やっぱり父兄が関心を持つということは大事ですから一緒にやっていただくと良いと思います。

(市長)

親に登りたくないのですから。

(参加者)

親が危険なことは昔から嫌だといってそうなっちゃったんです。

(参加者)

正直言って、クラブでこのまま頂上に上がると言っても息があがっちゃうそれくらいの年なのです。それにハンマー持って、何持って、荷物を持って、上で何かやりましょうと言ってもなかなか若い手が欲しい時なのです。今、これを直していかないと後世に若しそれをやれと言ってもなかなかいきなりやるといっても。

(市長)

昔は学校林というのがありましてね。子どもたちが学校林の下刈をやったりしました。私が今度、PTAの父兄とかになったら、子どもでなく親を連れていったりなんかで。もう学校林は払い下げしてしまいましたが。

(参加者)

時代の流れですけれど、やはりそういう方向へ舵を切らないと、やがてまた我々の代が終わってしまうと山が見捨てられるという時代が来るのではないかと思うのですね。そういう意味でやはり早くから山に親しむ方向へお勉強してもらいたいのが本音なのですね。

(市長)

荒倉山はどれくらい人が来るのですか。

(参加者)

私、木の実で身代人形といって、小さいものなのですが、神主さんにお祓いをしてもらってお守りといことで記念に渡しているのですが、それを1,700~1,800作って、今は200位しか残っていないんです。だから自分が案内した以外にも来ているから、かなり来ているということですね。

(参加者)

塩田さんは木の実のほかにも鶴を作ったり、すずめを作ったりしてそれをみんなお土産に持たせて、たくさん作ってね。

(参加者)

次の代も心配でしょう。

(参加者)

いえいえ。感じたのは、今、観光登山ですよ。それで観光登山の人がわりと事故を起こしているんです、遭難とか。自分は観察会でも花を知っていますけれど教えません。何も教えない。親も知らない、連れてくる先生も知らないのです。私は知っていても絶対教えない。何しろ見せる、調べる、覚えさせる、そして興味を持って。だから海拔何メートルに行くと木の枝が上に折れるか下に折れるかといっても分からない。木の年齢を調べるのにどうやって調べるか分からない。天然記念物だったらどうする、木って調べられる訳がない。そういうあれを僕はガイドの中で、よく全国のガイドさんの中でも意地悪く頼んでもらうのですが、ただ知ったかぶりの説明ですね。全然興味を抱かせてくれない。あんなガイドはガイドじゃないですね。だからやっぱり興味を持っていただいて、じゃあ秋に来てみよう、冬に来てみよう、やっぱり興味を持たせる、そして、まず花に興味のない人には花の説明をしても意味がないですよ。だから、いかにこの子たちは、このお婆さんは、このおじさんはと個性をぱっと見抜く眼力も必要ですよ。そしてやっぱり、体験をさせてやってみる、そして覚えさせて興味を持たせる。それで私は荒倉山は直接電話が来るんです。FAXだ携帯だなんて言うけど、携帯なんかは仏さんの引き出しに入れっぱなしでうるさくてしょうがないから、そしてさっきも言ったようにお米をお百姓さんからいかに買ってもらってお金を落とさせるか、どうしたらまた行ってみよう興味を持たせるかそこに一番ポイントを置いてガイドをしているのですが。それで今年もまた、新府の桃の花が割合長かったですね。あそこへ出向いて甘利山のツツジと鳳凰、そして鳳凰もただ上が綺麗だという説明だけでなくルートの中の良さというものをアルバイトしておくんですね。そうすると、じゃあ行ってみようかというふうになってくるんです。だから問い合わせもかなりあります。

(参加者)

確かに、観光で萑崎に来た方が萑崎のものを買っていってくると一番いいですね。だからそういうやり方だと例えば北杜市の明野のひまわり祭りですね。あそこは毎年、農業公社がやっているのですが、東京へ宣伝しますよね。ひまわりの最盛期には1日多い日には50台、100台の大型バスが来るのです。大体、日帰り弁当付で5千円ですよ。したがって、あそこまで来るけれど、ひまわりを見て、その産物を買ってUターンで帰っちゃいます。金のかからないところしかバス会社は寄りません。だから上にハイジの村があるけれどあそこへはバスを入れません。あそこへ入れると観光会社がするのです。入場料をとるから。だから全部Uターンして、運転手は明野のお土産をもらってそのままUターンですよ。そうすると地元の人みんな潤っちゃって、声を聞くとあその農家の人は喜

んでいます。

(市長)

ひまわり祭りとか大根祭りとか。

(参加者)

でも葦崎の場合は、ツツジの時期は産物がまだないのですよ。小梅が出るかどうかちょうど桃が出ればいいのですが、まだ早いのですね。必ず甘利山の場合は滞在時間がよくて2時間位ですね、ぐるっと周って。次は温泉に行こうか何か買いにいこうかという人が多いのですが、次にどこを紹介するっていうとそういうところが。

(参加者)

そうすると、やっぱり梨北米とか穂坂のワインということになってきますね。

(参加者)

自分は県の観光ガイドをやっていますが、はっきり言って赤ワインなんていうものは、もう穂坂でしかできませんよと、向こうではできませんよとはっきり言っていますよ。

(参加者)

そのくらいでちょうどいいですよ。

(参加者)

それで、やっぱりね経済効果が上がらなければ市民に協力しろだ行政が何にもしてくれないだとか、そんなしてくれる訳ないですよ。あてにするほうがおかしい。やっぱり地道に時間の中から積み上げていかなければ、何でもあれもこれも金さえかければ何でもできるもの。

(市長)

まあ、いろいろ長時間ありがとうございました。

(藤巻補佐)

ちょうど時間という合図をいただきました。ありがとうございます。聞いていて感じたことはいろいろ分かりました。組織がないと、横の連携がないと、それでこれからの一番のテーマは組織を形成して活動を計画的に行っていく。そういう意味では今日が新たな出発地点かなということを感じました。最後にもう一度今日の話し合いをした中で、市長さんに感想を含めて一言お願いします。

(市長)

私もあまり山に登らないほうなのですが、今日は本当に甘利山倶楽部の方々のお話を聞いて、大分ヒントを得たところもありますし、先ほど秋山議員が言いましたようにこの地域の山とか特に市の商工観光の予算といたらものすごく少ないですね、私が就任した頃は。今年が3億、何しろ少ないですよ。商工ですから工業とか商業も入り、観光も入るのですが、こんなことではだめだなど思いながら、よその市なんかみますと、甲府も9億位でそんなに多くないですね。ところが飯田あたりに行くと20億とか何とかいうのです。

(参加者)

長野県は大きいですよ。

(市長)

市によってこんなに観光に対する力の入れ方というのが違うということが数字を見ただけでも分かるのですが、そうかといってすぐ増やすといっても増える訳ではありませんから、またいろいろ皆さん方の意見を聞きながら頑張っていきたいと思いますのでよろしくをお願いします。どうもありがとうございました。